

平成5年度
(1993)
第33回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌清田

【 専門委員長 寸評 】

男子団体戦は、予想通りの強さで札幌藻岩高校が14回目の優勝を飾った。近年伸びてきた地方勢が振るわず、ベスト4位まで札幌勢が占める結果となったことが残念である。

女子団体戦も、予想通り札幌清田高校が10回目の優勝。また、函館、旭川地区から3位が出て、地方勢の力が確実に上昇していることを物語った。

個人戦ダブルスは、男子は札幌藻岩高校同士、女子も札幌清田高校同士の闘いとなり、他校の奮闘が期待される結果となった。

個人戦シングルスは昨年のメンバーに男子は山田を加え、女子は小城戸(札幌南) 武藤(札幌旭丘)の健闘が目立った。

【 全国大会 】

男子団体戦に出場した札幌藻岩高校は 良く健闘し、昨年に引き続き全国ベスト8に入った。全国大会団体戦14回以上の札幌藻岩高校が全国ベスト8を、4度入ったことになり、全国的名門の席を獲得したことを意味する。

昨年のインターハイ、今春の選抜大会、今夏のインターハイ続けて全国ベスト8をキープしており、力が着実につき、安定した強さを発揮している。全国のテニス界に札幌藻岩高校の存在を大きくアピールしたことになる。

2回戦から出場した札幌藻岩高校は、第1回戦を2対1で和歌山東(和歌山)に競り勝ってきた東京学館新潟(新潟)とを(D)6-1、(S1)6-3、(S2)6-1の3対0と圧勝する。3回戦は、全国大会準優勝を経験している四日市工業高校(三重)に(D)6-7、(S1)6-3、(S2)6-1の2対1で倒し、第8シードの面目を守った。4回戦(準々決勝)は全国優勝4回を達成している清風高校(大阪)と対戦した。ここから3セットマッチとなり、3面同時進行で行われた。Dはファイナルセットにもつれ込み、リードしていたものの、S1とS2が共に0-2で敗れ、Dは打ち切り。内容の上では互角の試合だったが、0-2の結果に、ベスト4に入ることの難しさを改めて感じさせられることになった。

女子団体戦に出場した札幌清田高校は、札幌地区大会、全道大会と試合を重ねることに実力をつけ、全国大会では、その実力を十分に発揮した。2回戦から出場した札幌清田高校は、星林（和歌山）を倒して勝ち上がった新潟第一（新潟）と対戦した。男女とも初戦で新潟県代表と対戦するとはまた奇遇なものである。Dを簡単に0-6で落としたものの、（S1）6-0、（S2）6-2で、2対1と征した。3回戦は、女子にも力を入れてきた名門柳川（福岡）と対戦し、2対0で敗れたものの、内容的にはいいものが残った。Dはタイブレークの末6-7で勝負が決したが、S2が一時は4-3とリードしていたので、Dの結果いかんによっては勝ちを得ていた内容であった。

個人戦はシングルス128、ダブルス64、で北海道の出場枠は男子Sは3、男子Dは1、女子Sは3、Dが2となっている。個人戦は1回戦が11セットマッチで2回以降は3セットマッチとなる。

男子シングルスでは、北海道第1代表の奥野（札幌新川）が4-6で敗れたものの、佐藤・山田の札幌藻岩勢がよく健闘し、1・2回戦を圧勝し、3回戦に進んだ。残念ながら3回戦で敗れ、全国大会出場のボーナス枠1を獲得できるベスト16位には入れなかったものの、力は全国上位で通用することが証明された。

男子ダブルスは今年から1枠削減され、札幌藻岩高校の佐藤・本田が、1・2回戦は圧勝して、3回戦で惜敗し、ベスト16に入った。

女子シングルスは、小城戸（札幌南）が団体優勝している東京の富士見丘の窪田に歯が立たず敗れ、武藤（札幌旭丘）も名門の愛知・高蔵の小谷に対戦して負けたものの全国レベルを肌で感じた良い経験となった。昨年も出場している本田（札幌稲西・北海道第1代表）、1・2回戦ジュニアあがりの選手に勝ち、第3回戦まで進んだ。3回戦は東京・藤村女子の佐伯に敗れたものの立派な戦いぶりであった。尚、佐伯はシングルス全国チャンピオンとなった。

【 全道大会 】

男子団体戦は予想通りの強さで札幌藻岩高校が、14回目の優勝を飾った。近年伸びてきた地方勢が振るわず、ベスト4を札幌勢が占める結果となった。

女子団体戦も予想通り、札幌清田高校が、10回目の優勝を果たした。地方勢では、函館、旭川地区から3位が出て、地方勢の力が確実に上昇していることを物語った。

個人戦ダブルスは、男子は札幌藻岩高校の相打ち、女子も札幌清田高校同士の闘いとなり、他校の奮闘が期される結果となった。

個人戦シングルスは昨年のメンバーに男子は山田を加え、女子は小城戸（札幌南）、武藤（札幌旭丘）の健闘が目立った。

（ 専門委員長 横山 俊之 ）

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

昨年の宮城県で行われたインターハイ全国大会では、4回目となる団体ベスト8入りを果たしました。その時の主力がほとんど残っている今年は、”全国ベスト4以上”という

のが目標で、つらく厳しい練習を、部員全員で乗り越えてきました。

その結果、北海道では負けていけない、「絶対に勝つ」という気持ちが全員に根付き、4年連続14回目の優勝を為し遂げることが出来ました。

自分たちで掴んだ全道優勝は、団体戦のメンバーが、昨年からの主力が多く、試合なれしている者がほとんどのため、勝って当然とさえ周囲から思われていました。そんなプレッシャーをはねのけ、後輩達の応援などで、チームが一つとなって勝ち得た優勝なので、とてもうれしく、また、自分達の大きな自信につながりました。

しかし、あくまで目標は全国大会。今年の栃木県で行われたインターハイの団体戦では、善戦の末、あと一步力が及ばず、結果、団体戦ベスト8という成績を残しました。

この成績は、毎日の緒方先生の熱心なご指導と、OBや他の方々のご協力やご指導はもちろんのこと、部員一人一人がテニスというスポーツに、本気になって取り組み頑張ってきたからです。後輩達には、この結果に満足することなく、自分達に追いつき、追い越すつもりで練習し、藻岩高校のテニス部ということに、誇りを持って堂々とプレーして欲しいと思います。

(札幌藻岩高校 主将 佐藤 健一朗)

優勝のよろこび

女子 札幌清田高等学校

どんな勝負もやってみなければわからない、そして努力すれば、そうなりたいと思う強い気持ちさえあれば、できないことは何もない。それを信じて、それを自ら証明するために毎日練習を積み重ねてきました。テニスの初心者ばかりのチームで、すごいショットも派手なプレーもないかもしれないし、一人一人の力は小さいかもしれませんが、でもだからこそ、みんながそれぞれの弱点をフォローしあい、自分の長所を最大限に生かし、持ち前のチームワークで最後まで闘い抜きました。その結果として手に入れた団体戦全道優勝は、私達にとってかけがえのないものです。一つ一つ積み上げてきたものが実を結んだということに、大きな喜びを感じています。

私達はテニスを学んだというよりも、テニスを通してたくさんのことを学んできたような気がします。そしてそれは、一人一人の心の中に生き続け、これから歩んでいく人生の中で、様々な意味を持って現れることと思います。

冴えない大根やじゃがいもばかりの私達を優勝に導き、そして沢山のことを教えて下さった緒方先生に感謝します。そして喜びや悔しさを味あわせてくれたテニスに、共にそれを味わった仲間達に感謝します。そして、私達はこれからもずっと新しい目標に向かって前進していきたいと思っています。

(札幌清田高校 主将 武田 郁恵)

全国高校総体（第83回全国高等学校庭球選手権大会） 栃木

8月13日～20日

栃木県総合運動公園テニスコート
宇都宮市清原中央公園テニスコート

男子 個人戦シングルス	優勝	岩渕 聡（柳川）
	準優勝	鈴木 貴男（堀越）
	第3位	石井 弥起（堀越）
女子 個人戦シングルス	優勝	佐伯 美穂（藤村女子）